

第 10 回目を迎えた岡山県堆きゅう肥共励会

岡山県農林水産部畜産課

1 はじめに

皆さん、「堆きゅう肥共励会」をご存じでしょうか？

本県では、家畜排せつ物を適切に処理し、良質なたい肥を生産するための技術向上及びたい肥の利用促進を図ることを目的に、平成 11 年から毎年開催しています。

この共励会が、今年で、節目となる 10 回目を迎え、去る 1 月 28 日にテクノサポート岡山で、畜産農家をはじめ、耕種農家、関係機関等の多くの方々に出席していただき、盛大に表彰式を開催することができました。

この堆きゅう肥共励会は、今でこそ、全国各地で盛んに行われるようになりましたが、始めた当時は、牛等の共進会は数多く行われていたものの、たい肥を対象とした催しは、全国的にも珍しい取り組みでした。

そこで、開催 10 回目を記念し、皆さんに、この共励会の様子をご紹介します。



表彰式の様子（H21. 1. 28 テクノサポート岡山にて）

2 共励会の概要

牛の共進会では、皆さんもよくご存じのように、体型等を審査します。では、たい肥は、どうやって審査をするのかと言いますと、pH や有機物含量等の成分分析値と臭い、手触り等の官能項目で審査を行います。そして、両審査

で付けた点数を基に序列を決め、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点を選定します。

出品対象は、毎回牛ふんを原料とするたい肥とし、20～30 点の申込みがあります。

これを、約 1 カ月で成分分析を行い、その後官能審査を行います。官能審査では、1 日で何十点ものたい肥の臭いを嗅いだり、手で握りしめたりしますので、これが結構大変な作業となります。

審査の際は、下表項目を内容とする「品質判定基準」に基づいて行いますが、この基準も、安全で耕種農家のニーズにあったたい肥が高得点になるよう改定を重ねてきました。

また、審査員も、当初は関係者 5 名と耕種農家 1 名と少人数で審査をしていましたが、たい肥利用者の意見をできるだけ反映させようと、15 年からは耕種農家の審査員を 9 名に増やしました。また、同時に耕種農家の審査員が、ご自分の経営の中で、最も使ってみたいたい肥を選定していただく「特別審査員賞」も創設しました。

表 審査項目

成分分析項目	官能審査項目	その他項目
水分、pH、EC、有機物、窒素リン酸、カリ、CN比、亜鉛	臭気、手触り均質性、総合判定	堆積期間、コマツナ発芽試験 外来雑草発芽試験、腐熟度



官能審査風景（H20. 12. 17 総合畜産センターにて）

3 共励会開催の効果

共励会の目的のうち生産技術向上については、以前は官能審査の際、臭いを嗅ぎ、手で握りしめるのに一瞬躊躇するたい肥も何点か見られていましたが、今では、臭いもなく、サラサラとして甲乙付けがたいものが、数多く出品されるようになり、技術の向上がひしひしと感じられます。

また、17 年からは、審査結果を基に、出品
たい肥がどのような状態であるのかを分かり
やすく解説した「たい肥診断シート」を出品者
全員に渡し、技術向上に役立ててもらう取り組
みも始めました。

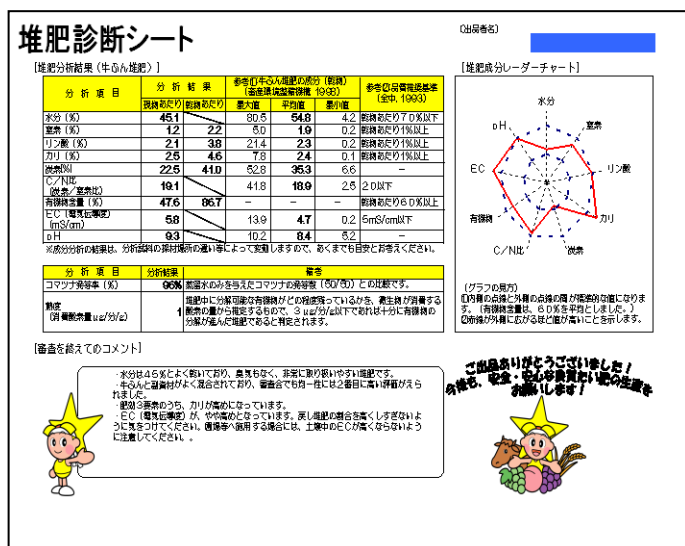


図 たい肥診断シート

そして、もう一つの目的の利用促進については、表彰式の際には、展示場を設け、出品たい肥や啓発用パネルを展示するなどして、県内で生産されるたい肥のＰＲに努めています。

また、表彰式と同時に研修会も開催し、全国各地から講師を招き、たい肥の製造や利用する際に参考となる話をして頂いております。特に最近では、より多くの耕種農家に参加してもらえるように、工夫を凝らした研修内容としていきます。

4 最後に

「家畜排せつ物法」が施行されて以来、家畜排せつ物の不適切な管理を解消するため、関係者が一体となって畜産環境対策を実施してき

ました。

その中でも、たい肥化については、家畜排せつ物の利用を進めていく上で多くの利点があるため、重点的に進められてきたところです。

しかしながら、現在は、生産されたたい肥の利用拡大が緊急の課題となってきました。

そのためには、耕種農家にたい肥の特性を理解してもらう一方で、畜産農家も耕種農家のニーズを把握した上で、たい肥を供給していくことが大切です。

つまり、たい肥生産者と利用者の双方の理解と努力が、今後ますます重要となってきます。

本共励会も、これらの一助となるよう開催して参りましたが、10 年を一区切りとして、リニューアルすべく、今後の開催方法等を検討していくこととしています。

県では、地域と調和した畜産を推進するため、引き続きたい肥の利用拡大を推進して参りますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。



出品たい肥やパネルの展示